

「だって周りが良い人ばっかだもん」

豊川中部中・3 中川 ライラン

生徒会長は、まじめで、成績が良くて、クラスの人気者で、男子からも女子からも頼られていて、運動もできて、完璧になろうと努力する非の打ちどころがない人だと思いませんか？それに対して僕は、運動もできないし、今にもくずれそうな豆腐メンタルだし、非の打ちどころしかないし、副会長にはくねくねしてるって言われるし、友達からはあほっぽそうだと思われていますが、それでも中部中学校の生徒会長です。

「議会の文考えといて。」

「生徒集会の文考えて。」

これは僕に割り振られている仕事の一つです。毎月僕は議会、そして生徒集会の文を考えて、暗記しています。

僕が生徒会長になったばかりの三月、任命式の文を考え、生徒会担当の先生にチェックをもらいにいきました。

「少しきつくなっちゃうことを言ってもいい？いやだったら言わないけど。」

と言われました。今後、生徒会長として成長するためにも、自分のメンタルを強くするためにも、僕はお願いしますと言いました。

「文が幼い。」

衝撃的でした。この一言が僕のメンタルを粉々にしました。一日中気持ちが上がらないままでした。正直この出来事があった後からは、先生にチェックをもらいに行くことが怖かったです。

新入生も入学してきて、きれいな桜が散り終わった頃、前期最初の生徒集会がありました。僕は、生徒会の先生に、「執行部の活動報告お願いね。」

と言われました。僕は、仕事がそれだけなのかなと勘違いしていました。当日、先生に

「生徒会長のあいさつ考えてあるよね。」

「えっ。」

とっさに出てしまいました。この瞬間、僕は頭が真っ白になりました。

「前にも言いました。議会と生徒集会は毎回生徒会長のあいさつあるって。覚えてる？」

僕は頭をフル回転させて何度も先生との会話を思い出しました。しかし、そんなことを言っていた記憶がなくて、正直に言いました。

「言っていないです。先生そんなこと言ってません。」

「言っています。前の生徒会長は集会の二日前には先生にチェックをもらいにきてました。ちゃんと生徒会長として行動してください。」

先生の言葉がナイフのように僕の心に突きさりました。前の生徒会長と僕とは、月とすっぽんくらいの差があるし、個人差があるものだ、どうしてわかってくれないんだ、と思っていました。僕は精神的につぶされていました。

正直、生徒会長の仕事は、とても大変です。議会や集会のあいさつを考えて、暗記して、自分をアピールして、たくさんのことを乗り越えてやっと一つ達成できるような状態です。全校生徒の見本であることのプレッシャーはとても大きいし、僕みたいなノリと勢いだけでは悪い方向に転がってしまうのではないかと考えることもあります。

しかし、僕が生徒会長になって気付いたことがあります。それは、たくさんの人が僕を支えてくれていて、たくさんの人が僕のことを認めてくれていることです。今の担任の先生だけではなく、去年の担任の先生や各教科の先生方、たくさんの方々が僕を支え、そして認めてくれます。そして、僕のテンションがとてつもなく低

いときに場を盛り上げてくれる友達、そつとそばにいてなぐさめてくれる友達、ずつと心配してくれる友達など、みんな僕のことを認めてくれていて、いつも支えてくれます。家族なんかは、すぐに気づいてくれて、僕の気分がよくなるまで愚痴をきいてくれます。こんな僕なんかがたくさんの人に認められていて、支えられているなんて夢のまた夢で、本人に伝わっていないかもしれないが、本当に感謝しています。みんなの優しさに何度も涙を流している自分があります。僕の人生のあり方をちゃんと教えてくれる先生方。

「お前と友達になれて良かった。」

と言ってくれる優しすぎるたくさん友達、そして最高の家族に恵まれています。たくさんの方が支えてくれ、認めてくれているので大変なことがなければです。

僕は人生勝ち組です。

「だって周りが良い人ばっかだもん。」